

平成 29 年 7 月 18 日

防災士箕輪町連絡会にて SC のすすめる感震ブレイカーの広報活動実施

防災士箕輪町連絡会

平成 24 年 8 月 27 日、7 人で発足。会長は現長野県自主防災アドバイザーで、甚大な被害をうけた平成 18 年 7 月豪雨災害当時の北小河内区長・丸山全二氏。

平成 25 年 4 月 1 日、箕輪町防災士養成事業補助金交付要綱制定(防災士資格取得補助金)

平成 25 年 5 月 22 日、箕輪町における防災士活動指針制定

現会員 40 人

は、地震総合防災訓練等地区における防災活動との連携を図るため、平成 29 年 7 月 13 日箕輪町役場に 21 人参加のもと、第 10 回防災士箕輪町連絡会を開催した。

○地区との連携活動について

- ・平成 29 年 9 月 3 日(日)予定の箕輪町地震総合防災訓練との連携
 - ・7 月 24 日予定の防災士勉強会
- 等の協議と意見交換を行った。

○箕輪町 SC における防災・減災対策

- ・平成 28 年 3 月から、箕輪町 SC ぐらしの安全対策委員会が課題「地震被害の軽減対策が不十分」で取り組んでいる感震ブレイカー普及について説明して協力を要請した。(別添・配布資料参照)



データに基づく客観的課題 “地震の軽減対策が必要”

図表6 箕輪町における地震被害想定(2015)

	マグニチュード	30年内発生確率	震度	全半壊(棟)	死者(人)	停電(軒)
糸静線南側	M7.6	13~30%	7	4,390	100	11,510
東海地震	M8程度	88%	5強	わずか	わずか	2,460
南海トラフ	M8~9	70%程度	6弱	1,190	10	10,010

2015年 政府地震調査委員会、長野県第3次地震被害長結果から

図表7 長野県における減災効果の想定



10 長野県発表：糸魚川-静岡構造線断層帯の地震での減災想定(2015)

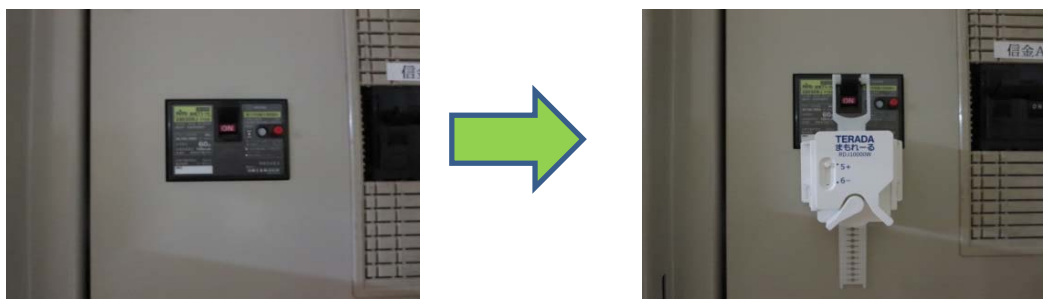
地震被害軽減プログラム(平成 28 年 3 月~新たに設定したプログラム)

課題	地震被害の軽減対策が不十分
目標	地震からの減災意識と減災対策の向上
内容	①減災・防災意識を高め、訓練参加者や防災士を増やす ②家具転倒防止対策や感震ブレーカーの普及を促進する
対象	家庭、企業、保育園、小中学校
実施関係者	消防署、消防団、民生児童委員協議会、SCくらしの安全対策委員会など

上記プログラムの評価指標及びプログラムの効果

指標	指標内容【測定方法】	
活動指標	検討中	—
認識・知識	緊急メール登録数	2016年 緊急情報メール 3,535人 登録率 13.6%
態度・行動	震災総合訓練参加者数	年 2012 2013 2014 2015 2016 人数 3,746 3,933 3,932 3,329 3,904
	防災士数	人数 7 12 15 26 35
	家具転倒防止対策実施率	n =399 - - - - 32.0%
	感震ブレーカー設置率	n =400 - - - - 6.5%
状態・状況	町の減災効果の推定値	算定方法については今後検討していく

感震ブレーカーについて



○効果

- ・ 阪神淡路大震災→火災通報 237 件で 60%が通電火災
- ・ 東日本大震災 →火災 111 件、原因特定 108 件のうち 54%が電気関係出火
- ・ 首都直下地震 →推定死者 2 万 3 千人、全壊焼失 61 万棟
⇒感震ブレーカーで火災死者を 40%以上減らせる。

○箕輪町で予測される地震による火災被害

- ・ 糸静線南側 120 棟が焼失
- ・ 伊那谷断層 110 棟が焼失

○価格等(各種メーカーがあるため、ひとつの参考として)

写真の感震ブレーカーについて

・機能

揺れによりブレーカーを切断するもので、震度 5 強と震度 6 弱の切り替え設定有。

東海地震予測 ～箕輪町で震度 5 強

南海トラフ地震予測 ～箕輪町で震度 6 弱

平成 29 年 6 月 25 日木曾地震は、木曾町、大滝村で震度 5 強

・取扱い業者

松本市中央 4 丁目 5 番 3 号 信州電機産業(株) 0263-33-0210

・価格

定価 4860 円を 3500 円(18%引き)

・注意点

従来のブレーカーにしか装着できない。(最近のカバーのあるブレーカーにはスペース上からつけられない。最近のブレーカーは感震装置を備えているものもある。)

・参考

業者が来町することから、この機会を通じて受領可能。

日本セーフコミュニティ推進機構上席アドバイザー
箕輪町セーフコミュニティ推進協議会アドバイザー
向山 静雄 090-1451-1017